1.鍛えられた胸板、南﨑さんのスーツ姿が際立っている秘密です　2.ネクタイの表情をだすため結び目を小さく固くしめていきます　3.合わせる靴はブラウン、これだけで印象がかなり柔らかくなるのです　4.スーツ姿が際立っているもう1つの理由が肩のライン、なだらかに落ちている肩のシルエットで優しげな雰囲気にしあがります　5.ネクタイはナポリの至宝マリネッラ、各国首脳クラスがつかう世界で四本しか生産しない品質には定評あるブランドです

仕事をなめている自分がいました。

1年ほどアルバイトをしたあと社員になり、現場仕事に入っていきました。同時通訳の現場なのですが、すでにシステムや流れがきちんと出来上がっているので現場での仕事ってすごくシンプルなのです。ボタンを押せば動く、押さないと動かない。そして操作間違いがおきたとしても必ずなんとかなるようなバックアップ体制ができている。属人的ではない仕組み。そこが弊社の一番の強みでもあるのですが、仕事の面白みや楽しさが見いだせなかったのです。それまではカヌーの現場で人の命をあずかっていたので、緊張感もすごくあってそこが充実感につながっていたのですが、今度は人が死ぬわけでもないし、優秀なシステムのおかげで間違えたらなおせばいい、気がついたら仕事をなめてしまっている自分がいました。だから仕事の失敗は数えられないほどあります。録音して納品するはずが録音できていなかったり。不用意な発言をしてお客さまを怒らせてしまったり。当時はなめている感覚はなかったのですが、当時の自分にアドバイスをするとしたらたった二言、仕事をなめるな！になりますね。

仕事をする中でわかってきたことがあります。それは、何をするか？　よりも誰とするか？　という人間関係が私にとっては遥かに大事だということ。カヌーの仕事がすごくたのしかったのは、カヌーそのものも、もちろん好きだったのですが、お客さまとふれあい、ともに過ごす時間がとにかく楽しかったのです。リピートで来てくれるような方もいて、カヌーもしたいけど、それよりも南﨑さんに会いたいと思ってきたんだ！と言われるとなんとも言えない心地よさとシアワセを感じていました。同時通訳の仕事自体にはなかなか面白みは見いだせないけど、いま一緒に仕事をしているこのメンバーに感謝し、ともに過ごす時間を楽しもう！　と考えるようになってから社員さんとの人間関係もどんどんよくなってきて、仕事自体の面白みも少しずつですが感じられるようには変化しはじめました。

だんだんと大きな現場をまかせられるようになり、副所長、所長と責任も大きくなり、２０１９年43歳のときに社長就任しました。社長になって一番変化を感じているのは、まわりとの関係性です。もっと言うとまわりの受け取りかたです。同じことを言っても受け取り方がぜんぜん違うのです。私は人とのつながりを何よりも大切にしているので、あえてフランクな言い方をすることもあったのですが、社長の発言になると冗談で終わっていた空気感が冗談ではなくなることもよくあります。どんな言葉を発するのがいいのか？　を更に真剣にならないといけなので、そういう意味でいうと窮屈といえば窮屈なのですが、立場によって当然変化をしていかないといけない部分はありますので、変に気負いするのではなく、成長するチャンスなんだと前向きに考えるようにしています。

イノベーションを起こすのが後継ぎの使命。

これは後継ぎの宿命であると思うのですが、先代とは今でもすごく比較されますね。業界でも父は知られた存在ということもあり、社内外いろいろなところで比べられます。すごく正直な気持ちを言えば、経営者としては父がはるかに上であり私の憧れでもあるので、比較されることにイラっとすることはないのですが、比較を払拭できる確固たるものが自分のなかではまだないことにモヤモヤとした感情はあります。とはいえ、父を超えたい！　というものではなくて、自分はあくまで自分です。私の長所といえば即断即決と実践力、それはやはりカヌーの経験からです。どうするのか？　をその場で瞬間的に決めない